

日本移植学会 理事会

「Istanbul Summit on Organ Trafficking and Transplant Tourism

April 30 to May 2, 2008/ Istanbul, Turkey」報告

前略

世界的な移植臓器の不足からくる社会的、倫理的、国際的問題の改善に向けて、TTS (The Transplantation Society;国際移植学会)が中心になり上記でサミットが開かれました。150名を超える各国(78カ国)の移植学会を代表する専門家が一同に集まり、5月2日昼(現地時間)「イスタンブール宣言」をまとめました。このようなTTSの国際的活動は、中国、フィリピン、インドなど人道的な問題が指摘されていた臓器移植に大きな影響を与えております。

日本移植学会からは、国際委員会 Ethical Task Force(ETF)メンバーである小林英司(TTS Steering Committee、日本移植学会 国際委員会委員長)、高原史郎(同学会 副理事長)、篠崎尚史(同会 WHO対応)、長谷川友紀(同会 倫理委員長)の4名が本サミットに参加いたしました。

TTSは現在、このイスタンブール宣言の内容は New England Journal of Medicine に投稿しており、6月下旬には全文が公開される予定です。今後、種々のメディアの取材の申し込みに対も、学会のホームページを始め、世界各国で翻訳文作成などの作業に取り掛かっております。

宣言の骨子は、

- 1 . Organ trafficking(臓器売買) Transplant tourism(移植ツーリズム) Transplant commercialism(移植臓器の商業化)等の内容を明確して、人道的、社会的、国際的に問題があるものに対し世界的に反対すること。
- 2 . 死体(脳死、心停止)ドナーを自国で増やし、自国での臓器移植を増やすよう呼びかけること。そのために国際的協力をすること。
- 3 . 生体ドナーは、ドナー保護を最優先し、選定や移植に関わる総合的な保障等の制度を国家的に取り組むよう呼びかけること。

等です。

以上、理事会でご報告申し上げます。

平成20年5月8日

国際委員会 ETFメンバー

小林英司、高原史郎

長谷川友紀、篠崎尚史

相川 厚